

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 岐阜県高山市立南小学校
種 別 ☐ 保育園・幼稚園 ☒ 小学校 ☐ 小中一貫※注1
☐ 中学校 ☐ 中高一貫※注2 ☐ 高等学校
☐ 教員養成大学 ☐ 専修学校、各種学校
☐ 特別支援学校
☐ その他（例：小中高一貫）
所在地 〒 506 — 0054 岐阜県高山市岡本町 1-18
E-mail minami@edu.city.takayama.gifu.jp
Website http://www.city.takayama.gifu.jp/ga/minami-e/
幼児児童生徒数 男子 187 名 女子 210 名 合計 397 名
幼児・児童・生徒の年齢 7 歳～12 歳

2. 報告期間

平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月 予定（見込み）

3. 活動内容

（1）活動の概要

本校の教育目標は、「あたたかい心の花を咲かせ自分づくりをすすめる子」である。自分作り仲間づくりを通して、主体的・対話的に課題に向き合う姿を大切にしている。

具体的には、総合的な学習の時間を通して、①郷土に関わる学習、②福祉教育、に関わる学習、③人権教育に関わる活動、④地域の連携等に関わる活動を行った。

①郷土教育に関わる学習

本校では、総合的な学習の時間の一部を「郷土学習」として位置づけ、高山のよさの発見や地域の方々の高山を大切にする取り組みや思いについて学習する時間を取り入れている。1年生から2年生で学習した南小校区を知る活動を生かしながら、3年生から6年生で学習する校区の自慢の観光施設や自然について知る活動を積極的に進めている。郷土に対する愛情を高めるとともに、自分たちの調べたことを地域の方に発信することによって、コミュニケーション能力も高めてきた。

②福祉教育に関わる学習

4年生・6年生では、車いす体験等の福祉学習、全校では、ぽかぽか班（異学年による縦割り班活動）、リサイクル活動（エコキャップ）、心の友運動等を行ってきた。福祉について学ぶ学習を通して、積極的に人と関わり、思いやりや奉仕の心を育み、学校教育目標の具現を図ってきた。

③人権教育に関わる活動

生活委員会「ぽかぽか言葉やぽかぽかハートを見つけて思いやりのある南小にしよう」を受けて、全校でひびきあい週間「よいことみつけ」に取り組んだ。周りの人のよさに目が向き、仲間のよさを認め合う心が育った。また、よさを見つけれられる自分のよさにも気づけて自己有用感を高めることにもつながった。

④地域と連携した活動

今年もお世話になった地域の方々を招いて、「ありがとう集会」を行った。学校生活や学習において、お世話になったたくさんの方々に感謝の気持ちを全校で伝える活動を通して、「ありがとうございました」という感謝の気持ちを一層深めることができた。



①3年 絵馬を描こう



②4年 車椅子の体験学習



③全校 ひびきあい集会



④全校 ありがとう集会

(2) 活動の詳細

① 活動内容

ア. 活動分野

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input checked="" type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input checked="" type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材

◇郷土教育

① 教材、教具

デジタルカメラ 探検バック 飛騨の里や高山陣屋のパンフレット

② 書籍

高山の文化財(高山市教育委員会) 岐阜県の歴史
わかりやすい岐阜県史 楽しい調べ学習 川と環境

③ ウェブサイト

高山市観光課 高山市環境政策部生活環境課

<http://www.city.takayama.lg.jp/seikatsukankyoku/>

◇福祉教育

① 教材、教具

車椅子、デジタルカメラ、パネル

② 書籍

点字ってなに? おたがいの気持ちをわかりあおう
家のバリアフリー

③ ウェブサイト

高山市行政情報

http://www.city.takayama.lg.jp/cgi-bin/htmlview/publicview.cgi?admin=contents_view&id=1050201000190&pub=3&type=pub

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。

3 学期制から 2 学期制の移行に伴って、探求活動に主体的、協働的に取り組み、よりよく課題を解決する資質や能力を高め得るように、思考力を身につけるための、学習活動や、探求的な学習の過程に適切に位置付くようにしていく。指導計画の見直しを行っていく。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。

指導計画等を見直しに向けて、○探求的な学習活動、協働学習、プログラミング学習、○情報教育、ふるさと教育の計画作成に全職員で確認し取り組んでいく。総合的な学習の時間のファイルを作成していく。また、データを学年に分けず、総合的な学習の時間のフォルダーに一括していく。人材リストの作成等、環境を整えていく。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。

1 評価の観点

① 郷土教育

- ・校区や高山市に対する愛情や関心・意欲・態度を評価する。
- ・取材や調査の活動を通して、コミュニケーション力を評価する。

② 福祉教育

- ・車いす体験、ブラインドウォーク体験を通して、関心・意欲・態度（障害を持っている人の気持ちになって）を評価する。
- ・学習したことを福祉のパネルにまとめる活動を通して、関心・意欲を評価する。

2 評価方法

自己評価 相互評価 教師の評価

（感想、パンフレットなどの作品、ワークシート、取り組む様子の観察等）

3 評価の時期

自己評価、教師の評価・・・毎回の活動 相互評価・・・学期末

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。

学習発表会、地域便り・学校便り、ホームページ等、保護者や地域住民に学習の成果を発表する機会をすることで、学校で学んだことを地域の方に伝えることができた。児童の学びの様子を知っていただく機会となり、地域の愛着や誇りを育むことができた。

⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成（地域コミュニティ、大学、E S D活動支援センター、E S Dコンソーシアムとの連携など）

今後、様々なE S D交流会や研修会に参加し研修していくことを検討していく。また、学校内においても、様々な資料を参考に、職員間の情報共有や研修等に生かしていく機会を作っていく。

⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成

12月、オーストラリアの高校生36名との交流会を行った。3年～6年の書写の授業公開や給食交流会、及び、6年生との歓迎交流会を行った。積極的にコミュニケーションを取ろうとする姿や交流を通して日本及び高山の良さを再発見することができる機会となった。今後もこのような機会を大切にしていく。

⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）

南小学校で大切にしている3つの自慢（あいさつ、掃除、授業）2つの習慣（スリッパ揃え、歌声）がある。それを受けて、日常生活においても、思いやりの心を育てようと、児童会が中心となり、様々な取り組みを継続的に行ってきた。生活委員会が行っている「あいさつ運動」「あいさつキャンペーン」は、地域や中学校校区など連携して活動しており、あたたかいあいさつが広がっている。

（3）平成30年度の活動計画

今年度行ってきた活動を大切にし、継続して活動に取り組んでいく。
E S Dの観点からも、育てたい力を見直し、学年に応じた、目標を設定し、学習や活動における具体的な手だてを考えていく。手だての有効性を検証する方法や実践を進めていく。また、横断的な学習をさらに進めることができるように、6学年を意識した教育課程の見直しをしていくことが必要と考えている。